

小学校

光村ポケット生活

わたしの
実践アイデア



たのしい あき いっぱい

実践 File
vol.2

新宿区立落合第三小学校
小川幸子先生のご実践から

1年 内容(5)「季節の変化と生活」
内容(6)「自然や物を使った遊び」



光村図書

LINE公式アカウント友だち募集中!



授業づくりに役立つ情報を、
いち早くお届けします。



【教授用資料】本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

「たのしい あき いっぱい」^(1年)

新宿区立落合第三小学校 主任教諭 小川幸子

秋は、落ち葉や木の実など、魅力的な自然物でいっぱいです。春や夏の様子と比べたり、幼児期の経験を生かしたりしながら、存分に秋と触れ合い遊びを創り出すためのヒントを、実践をもとにご紹介します。

活動の流れ 実施時期 9月～11月 | 時数 21時間 | 内容 (5)「季節の変化と生活」・(6)「自然や物を使った遊び」

小単元名	時数	学習活動
見つけた あきで あそぼう	10	・校庭や公園などの身近な自然の中で遊び、秋を探す。 ・見つけた秋で楽しく遊びながら、伝え合う。
あきの おもちゃを つくって あそぼう	7	・秋の自然を使った遊びを考える。 ・遊びや遊びに使う物を改良しながら、楽しく遊ぶ。
あきの おみせやさんを ひらこう	4	・幼児と楽しく遊ぶための準備をし、いっしょに遊ぶ。 ・これまでの学習を振り返る。

アイデア



▼ 活動を広げる工夫

外部人材と関わり、新たな思いや願いを生む

秋は、特に自然の変化を感じやすい季節です。秋探しに出かけた児童は、春・夏にはなかったものや、変化したものなど、さまざまな自然の不思議に気づいていきました。ところがあるとき、一人の児童が、「校庭や公園はもうつまらないよ。」とつぶやいたのです。

そこで、森の演出家(ネイチャーガイド)の方を招き、いっしょに散策をしました。今まで気づかなかったことに気づいたり、初めての素材に触れたりしながら、「秋で遊んでみたいな。」と新たな思いや願いが生まれました。

活動を重ねるうちに、「幼稚園のとき、たくさん遊びを教えてくれた先生に会いに行きたい。」「もっと違う



幼稚園を訪問し、ドングリや枝などを使ったおもちゃや飾りを紹介していただいた。



森の演出家(ネイチャーガイド)の方と公園を散策する様子。

ものを作りたい。」という声が上がりました。そこで、幼稚園を訪ねる機会を設けました。遊びやおもちゃの作り方を紹介してもらい、見て・聞いて・まねをしながら、新たな思いや願いを生かした多様な遊びやおもちゃができました。

「あきの おみせやさん」の準備では、レイアウトや遊び方に悩む様子が見られたため、おもちゃ美術館の方を招きました。「みんなを楽しませるためには、どうすればいいだろう。」と、相手の立場に立つことの大切さに気づいたようです。

教師だけで授業を進めるのではなく、外部人材の力を借りることで、児童の困り感の解消や、新たな視点をもつことにつながり、活動が広がっていきました。

アイデア



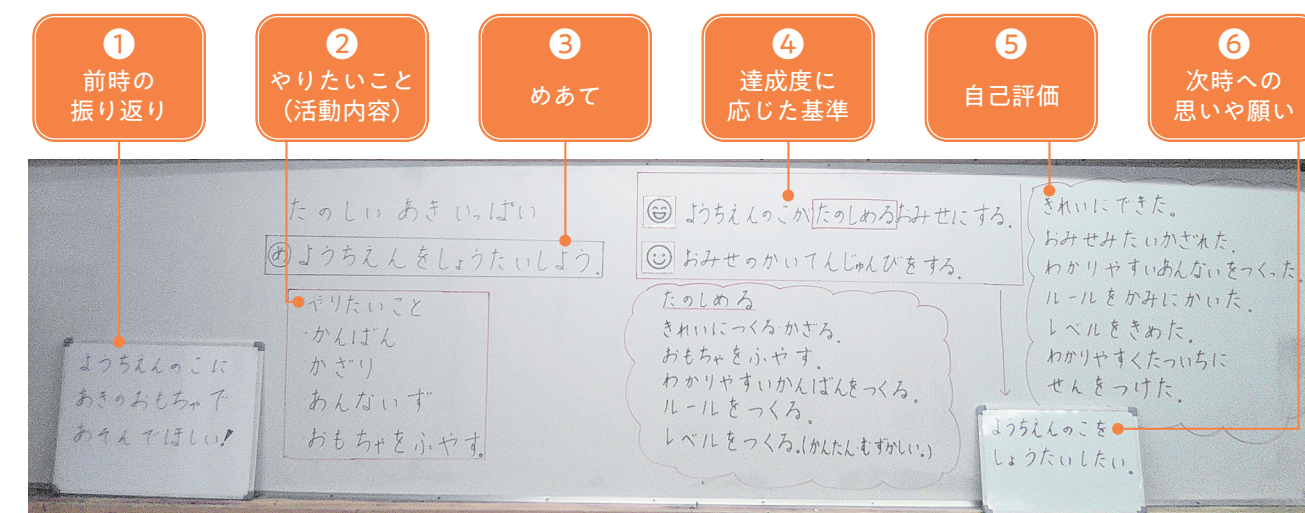
▼ 目標設定と振り返りの工夫

「子どもルーブリック」で児童主体に

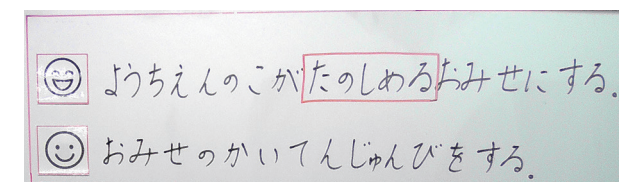
児童が活動に没頭するためには、「次は、こんなことをしてみたい。」という思いを自ら抱くことが大切です。毎授業末に、「次はどんなことをしたい?」と問いかけるようにしました。思いや願いを言葉にすることで、次の活動の見通しをもち、その実現に向けてどうすればよいのかを考えられるようになります。

「もっと○○したい。」という思いをさらに引き出すために、各活動で児童と一緒に「子どもルーブリック」を作成しました。「ルーブリック」とは、学習における具体的な目標と、その達成基準を示したものです。ここでは、「あきの おみせやさんを ひらこう」を例にご紹介します。

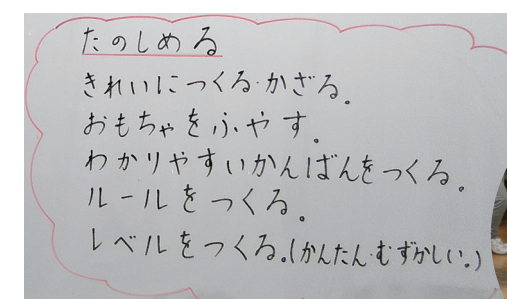
まず、授業の始めに、前時を振り返りながら、やりたいことを書き出します。「前の授業では、幼稚園の子たちに秋のおもちゃで遊んでほしいと言っていたよね。」「今日はどんなことをしたい?」と問いかけると、「お店の看板を作りたい。」「葉っぱで飾りを作りたい。」など、さまざまな声が上がりました。皆で話し合う中で、「ようちえんの こを しょうたいしよう」をめあてとし、それぞれのやりたいことを活動内容とすることに決めました。めあてと活動内容が決まったら、児童と相談しながら、達成度に応じた基準を設定します。今回は、「『楽しめる』お店を作れたか」という観点で、二つの基準を設けることになりました。



「子どもルーブリック」作成時の板書例。振り返りから児童の思いや願いを可視化していき、具体的な活動につなげていった。



児童と一緒に考えた二つの基準。「たのしめる」がキーワード。



思い思いの「たのしめる」を書き出した。



「楽しめる」という言葉には、人によってさまざまな解釈があります。「楽しめる」とはどういうことなのか、子どもたちの考えを書き出しました。最後に、一人一人の考える「楽しめる」お店を目ざして、より具体的な個人のめあてを立てました。

「子どもルーブリック」のよさは、めあての達成に向けて、やりたいことが明確になり、活動を自ら決定できるようになる点にあります。さらに、「子どもルーブリック」をもとに振り返り、自己評価をすることで、自分の学びを実感することにもつながります。児童の思いや願いを視覚的に示して活動を展開し、没頭したあと、振り返りとともに次時への思いや願いを言葉にする。「子どもルーブリック」で、児童主体の学びが循環していきました。

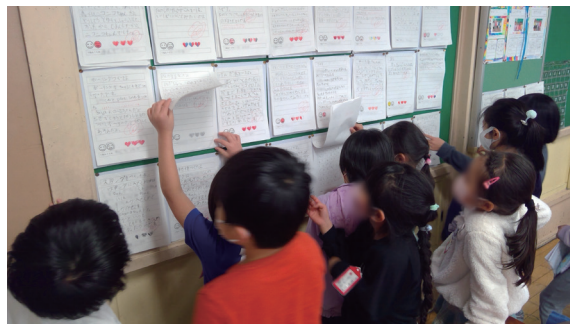
掲示物で気づきや対話を促す

振り返りシートは、児童がいつでも手に取って見ることができる位置に掲示しています。作品は写真に撮り、タブレット上で一覧することができるようにしました。すると、友達の振り返りや活動の様子を見て、「どうやったの?」と質問する姿や、教師からのコメントを楽しみにする姿が見られるようになりました。自分と友達の記録を自由に見ることができるようにすることで、発見や問いを共有し、児童どうしの対話が生れます。また、教師に価値づけられたり、友達から認められたりして、自分の活動に自信がもてるようになったようです。

さらに、困りごとを解決するためのお尋ねコーナーを作りました。早速、「ドングリにあながあかない。」と書かれた付箋が貼られました。すると、付箋を見た児童が、「ほそいドングリがいいよ。」「ぐりぐりさすといいよ。」と答えてくれました。



付箋に悩みを書き、ホワイトボードに顔写真とともに貼り付ける。
左2列が「おなやみ」、右2列がそれに対する「やってみてね」。



壁に貼られた振り返りシートを、自由に見る様子。



作品の写真をクラウドで共有する。

文字や絵で表現して、自分や友達の困っていることを共有し、いっしょに試行錯誤する。掲示物を工夫することで対話が促され、教師が教えるのではなく、子どもどうしで自然と学びに向かうようになりました。

教科書には
こんな
工夫も

教科書には、生活科の学びを支える工夫が満載。

ここでは、編集部が特におすすめしたいポイントをご紹介します。



▲上巻p71「おちばや木のみでつくろう」

●「ふりかえろう」で学びをつなげる！

全ての小単元に「ふりかえろう」を位置づけています。

活動中の出来事を、「気持ち」と「資質・能力」の両面から捉えることで、出来事の羅列や単なる感想にとどまらない、確かな振り返りの場となります。



光村図書

教授用資料

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)

光村図書ウェブサイト

光村図書 | 検索

